

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 22
2018. 02

TOPICS

1

岡山大学病院が厚生労働省指定 「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定

がん患者の遺伝子情報に基づき、最適な薬品や治療法を選ぶがんゲノム医療の中心的な役割を果たす「がんゲノム医療中核拠点病院」として、岡山大学病院が選定されました。「がんゲノム医療」を全国的に実施するため厚生労働省の検討会が2月14日に選定したもので、厚生労働大臣の指定を受けて平成30年4月からスタートします。

岡山大学病院は平成27年より、がんゲノム医療の時代を見据え「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を立ち上げ、がんゲノム医療に取り組んできました。さらに、平成29年12月には、統括部門として「ゲノム医療総合推進センター」を設置し、ゲノム情報を活用した診療や新たな医薬品等の開発促進、ゲノム医療に携わる人材育成の推進のための体制を整備しました。



金澤右病院長は「中国四国地域や兵庫県など近県のがん診療連携拠点病院と緊密なネットワークを形成し、ゲノム医療と革新的医療技術の研究開発をサポートしていくとともに、次世代の多様な人材を育成して豊かな国民生活と健康寿命の延伸を目指す」と話しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7342.html

TOPICS

2

横井副理事が本学のSDGsの取り組みについて講演



本学におけるSDGsの取り組みについて中小企業に紹介するとともに、産業を支える中小企業のSDGsへの参画を盛り上げるため、本学の横井篤文副理事・上級UGAが1月17日、市内で開催された中小企業向けセミナー（株式会社キャリアプランニング主催）に登壇しました。

講演で横井副理事・上級UGAは、「SDGsを経営に取り込み、社会的インパクトをもたらす企業となることが鍵。その結果、大手企業にも伍することができ、また更なる投資と人材を呼び込むこともできる。大学も同じ状況だ」として、SDGsと本学の取り組みを紹介。産業を支える中小企業がSDGsに参画することでSDGs自体のゴール達成のみならず、産学官連携を構築しながら、科学技術・イノベーションの振興と産業活性化に大きく寄与する点を紹介しました。参加した多くの中小企業関係者らは熱心に講演を聞くとともに、活発な質疑を交わしました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7312.html

最近の大学の取り組み

岡山大学古本募金の導入について



本学は、岡山大学学都基金の新たな募金方法として、岡山大学古本募金を導入しました。これは、皆さまから読み終えた本をご提供いただき、その査定換金額を岡山大学学都基金に寄付する取り組みです。皆さまからの寄付金は、本学のイノベーション創出、学都創成・グローバル化の推進に役立てられます。

申し込みは、WEB・電話いずれの方法でも可能です。また、中央図書館の1階ロビーには、古本回収ボックスも設置しております。こちらは、匿名による寄付となりますが、回収ボックスに本を投函するだけで寄付をすることができます。

本趣旨をご理解いただき、古本募金へのご協力方よりお願いいたします。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7321.html

アジア4か国からの高校生たちが 本学で実施された「さくらサイエンスプラン」に参加

本学グローバル・ディスカバリー・プログラムは、1月21日～28日までの8日間、アジア各国の高校4校から高校生を招へいし、日本の大学における科学技術教育に関する理解を深めるプログラムを実施しました。

プログラムには、Rajshahi Government College (バングラデシュ人民共和国)、Kasetsart University Laboratory School (タイ王国)、東北師範大学附属中学 (中華人民共和国)、慶南科学高校 (大韓民国) の高校生と、教員が参加。最先端の科学技術に関連した各種実験・実習や、英語による講義も体験しました。

高校生たちは、農学部、理学部、環境理工学部での科学実験・実習体験のみならず、グローバル・ディスカバリー・プログラムで実際に行われている文化人類学の授業を体験したほか、岡山大学内のさまざまな教育・研究施設や、兵庫県の大型放射光施設SPRing-8、姫路城も見学。科学的な知識を得ると同時に、質問する力やさまざまな国の人々と対話する力を磨きました。



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7304.html



次世代を担う若手教職員による 「岡山大学未来懇談会Session1-1」を開催



本学は楨野ビジョンのもと、より良い大学の将来構想についての多角的な検討を実施し、絶え間ない大学改革を進めています。その中で、本学の次世代を担う若手教職員ならではの視点とアイデアを重要な参考材料として未来の岡山大学に生かすための取り組みの一つ「岡山大学未来懇談会Session1-1」(未来懇)を2月16日、本学津島キャンパスの本部棟で開催しました。

参加者らは4つのグループに分かれ、各班のファシリテーターを伊野英男副理事、佐藤法仁副理事、狩野光伸副理事、横井篤文副理事ら若手副理事が務めました。単なる理想ではなく、現在本学が抱えている課題や執行部の大学運営に対する意見、現場の教職員が抱える不安や徒労など、参加者らの大学に対する疑問点や不満を含めつつ、将来のより良い岡山大学の未来を拓くため白熱した議論を交わしました。

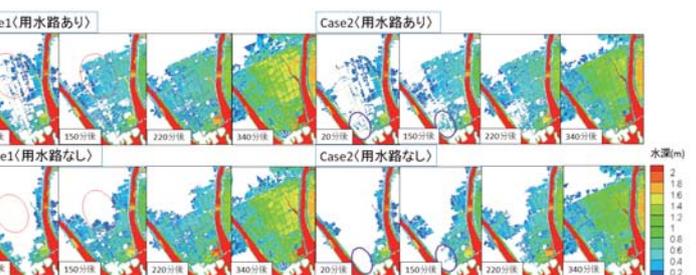


参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7344.html

PRESS RELEASE 1

用水路網が南海トラフ地震下の岡山市の津波氾濫に与える影響を検討 用水路網が津波氾濫を助長する可能性を明らかに

岡山大学大学院環境生命科学研究科(環)の前野詩朗教授らの研究チームは、岡山市の用水路網を再現した南海トラフ地震下の津波氾濫解析を実施し、用水路網を伝った津波の氾濫より岡山市の津波被害が深刻化する可能性を明らかにしました。用水路網を再現した解析では、用水路網を考慮しない場合よりも海岸から数キロメートル離れた地域においても早期に用水路からの氾濫が進行することなどが示され、用水路網が岡山市の津波氾濫を助長することが分かりました。本研究で得られた成果は、適切な津波避難計画の検討など今後の岡山市の津波対策に貢献できると考えられます。なお、本研究成果は2018年2月に土木学会論文集B1(水工学)Vol.74に掲載されました。



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id523.html



PRESS RELEASE 2

三次元がんモデル作製で生体に近い解析を行うことに成功 がん細胞オルガノイドがタンパク質を高効率に蓄積・分泌することを解明

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(歯)の江口傑徳助教、JSRライフサイエンス社の共同研究グループは、さまざまながん細胞をもとに、三次元的に試験管内で作製したがんモデル＝腫瘍オルガノイドの樹立に成功し、そのさまざまな特徴を明らかにしました。腫瘍オルガノイド研究は三次元的にがんを再現するため、より生体に近い解析が可能となる最新技術です。本研究で作製した、転移性および治療抵抗性の高いがん細胞に由来する腫瘍オルガノイドは、がんの進展に必要なHSP90 α タンパク質と細胞外小胞を盛んに分泌することが明らかとなりました。本研究成果をもとに、がんの再発と転移のしくみが明らかにされ、新しい治療方法が開発されることが期待されます。本研究は2月7日、国際オープンアクセス誌「PLOS ONE」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id524.html

